

## 健康起因事故の防止へ 危機感持ち取り組みを 中運局事故防止セミナー

中部運輸局は3日、管内のトラック、バス、タクシーなど運輸事業者を対象に名古屋市公会堂で「自動車事故防止セミナー

を呼び掛けるため「健康起因の事故防止に向けて」(ソフト・ハード両面による健康管理と対処の充実)とし、講演4題と



「2014」を開催。各社の代表や運行管理者ら約500人が出席した(写真)。テーマは、4月に改訂された健康管理マニユアルの周知と実践

パネルディスカッションで健康に起因する事故の防止情報を共有した。

講演は、国土交通省の小林豊安全政策課長が運転者の体調急変に伴う事故案を紹介したのをはじめ、NPO法人ヘルスケアネットワークの作本貞子副理事長が定期健診と睡眠時無呼吸症候群(SAS)対策の重要性を説いた。

さらに埼玉医科大の荒木信夫副医学部長がてんかんなど運転障害となる脳・神経疾患を説明。また、日野自動車の榎本英彦技術研究所長が車両の安全装置など現状と開発中の運転支援システムを報告した。

パネルディスカッションでは講演者に加え名鉄バスの堀江次郎氏、名鉄岡崎タクシーの伊藤僚一氏、日本梱包運輸倉庫の川崎秀樹氏が登壇した。堀江氏は、健康管理マニユアルの要約版を自社で

作成して運転者に配布。運転者に携行させていると述べた。伊藤氏は、毎年20人の運転者に費用は会社負担で脳ドックを受診。この中で4人に異常が発見されたという。

川崎氏は、無事故運転者の健康管理や日常生活を聞き出し、社内報に掲載。他の運転者の模範とするなど安全管理の「見える化」を図っている。

小林課長は、健康起因事故について「危機感を持つこと」「対策の流れを作ること」「国の補助制度の活用」「運転者が体調など自己申告しやすい職場作り」を呼び掛け、予防への取り組みを強く訴えた。